

プレゼンテーション 10

「サウジから見たLPG世界市場」

サウジ・ペトロリアム・リミテッド東京支社支社長

ワリード・アルベダイウイ 氏



サウジアラムコ社LPGマーケティング・マネジャー

アーメッド・アル・フヘイド 氏

サウジアラムコ社LPGマーケティング・コーディネーター

アブダッラー・アル・ドサリー 氏



サウジアラムコ社LPGエクスポート・コーディネーター

イヤド・アル・ジャラル 氏

サウジ・ペトロリアム・リミテッド 東京副支社長

アリ・アル・マスウド 氏

サウジ・ペトロリアム・リミテッド 東京副支社長

小池 栄樹 氏

(アルベダイウイ氏) このセミナーは本当の意味で、国際的な、世界各国の組織が参加をするシンポジウムになったと思う。今年のシンポジウムのタイミングは、大変興味深いタイミングで、原油およびLPガスの価格が過去最高となっただけでなくて、最近ですと少なくともこの地域では、業界の買収や統合といったものが行われている。そしてこのセミナーの重要性にかんがみて、LPガス関連のとりわけ主要なメンバーを集めてきたので、手短かにメンバーを紹介する。

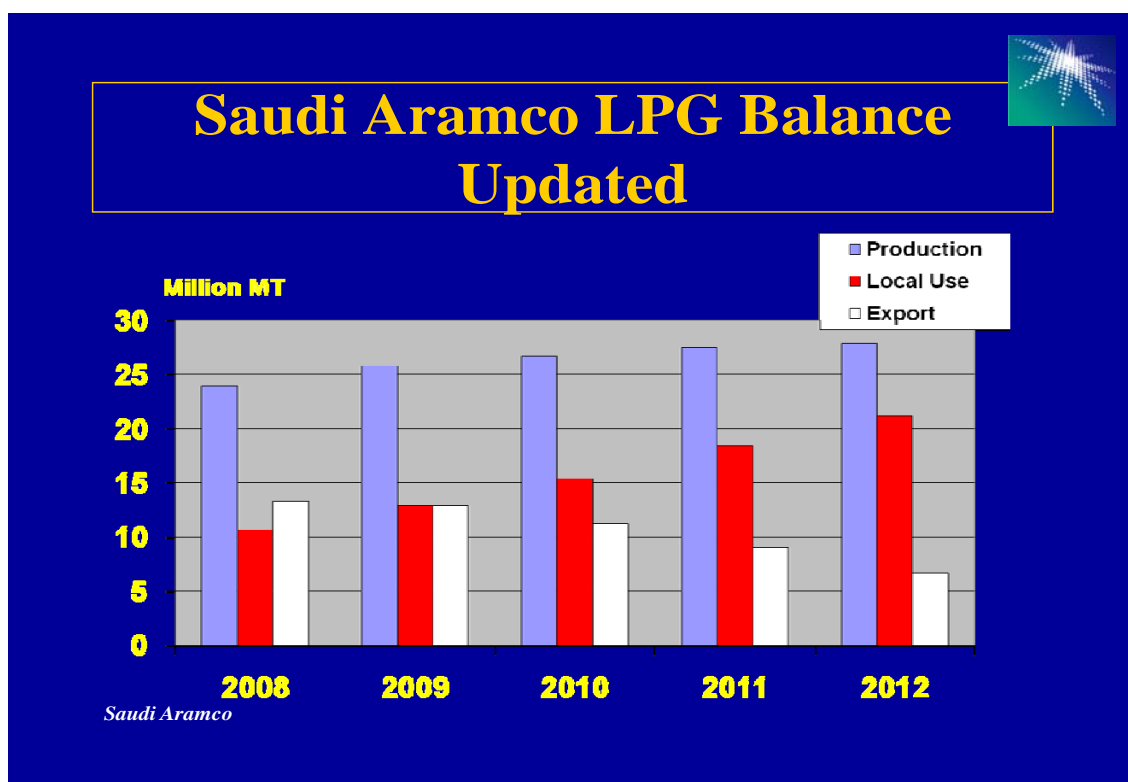
本社からはアーメッド・アル・フヘイド、LPGマーケティングのマネジャー。マーケティングのトップで、また月次のCP価格決定委員会のメンバーでもある。もう一人アブダッラー・アル・ドサリー氏で、貨物（カーゴ）の責任者。3番目が、イヤド・アル・ジャラル、LPガスのオペレーションを担当していて、恐らく大半の顧客企業の皆さんにはよく知られた人物だと思う。それから東京支社からアリ・アル・マスウド、彼はもう2年東京の方に勤めており、LPガスに加えて、日本における原油関連のお客さまとも接する立場にある。最後は小池氏。それこそこの分野40年の経験があつて、われわれの東京オフィスで支えていて、ほとんど東京のオフィスのすべてを見ている。今日はアル・フヘイド

さんの方から主に話をしてもらおう。

(アル・フヘイド氏) 日本だけではなく、世界各国からのLPG業界のメンバーの方たちと、私にとっては11回目になる対話をさせていただく。

○われわれ業界の主要な関心事の一つは、中東からのLPG輸出の増大。昨年の見通しと若干の違いがあるとすれば、大規模輸出増の開始が、当初の想定より半年ないし1年程度遅れていること。いずれにしても、輸出量が近々増大することは確か。

○ご承知のように、サウジアラムコは中東の主要なLPG供給者の一つ。われわれの今後数年間の輸出余力について、最近の見通しをご紹介したい。昨年この席では、2009年ころに、われわれの輸出余力は相当量低下するだろうと申し上げた。しかし、最新の想定では、輸出量の低下は2010年にずれ込むことになりそうだが、この見通しもこれから引き続き定期的な見直しが必要なことは言うまでもない。



○われわれのLPG生産は、当初の予想どおりに増加していきそうで、増産のベースは新しいガス処理プラントの立ち上がりや、予想される原油生産量の高止まり等による。同時

にサウジ国内のLPG消費量も増加してきている。しかし、2009年に予定されていた一部の石油化学プラントの立ち上がり、2010年にずれ込んできそうで、その結果、われわれのLPG輸出量は2009年ごろまで現状とほぼ同じ水準の1300万トン前後で推移をし、その後、低下してゆく見込み。ご記憶の方もあるかと思うが、前回私がここでお話をした時にご披露した数字に比べると、この数字は600万トンほど高めになっている。予想されるサウジのLPG輸出の、プロパン、ブタン比率は、現在の2対1から、2012年にはほぼ五分五分になる見込で、留意すべき変化と言える。

○中東からのLPG輸出は増大していくが、果たしてこれによってマーケットは供給過剰に陥るだろうか。昨年も同じことを考えてみたが、答えは今年も同じで、多分そうはなるまいと思う。なぜか。それをもう一度、考えてみたい。

○この問題の鍵は、LNGだと私どもは思っている。世界のそして特にアジアのLNGの需要が急速に伸びていて、新規のLNGプロジェクトからの供給は増加していくけれども、急増する需要に追いつくのは難しいかと思う。また原子力発電所の技術的な問題で、LNGのスポットカーゴへの需要も高まっている。

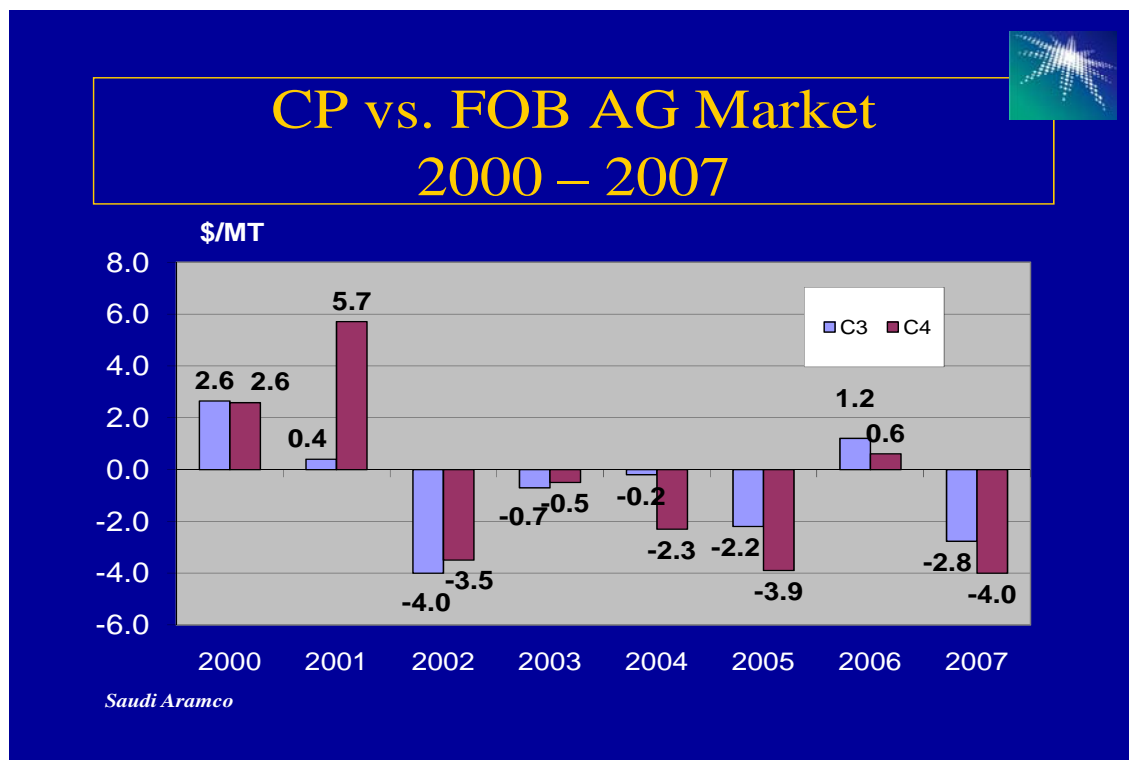
○昨年のCIF日本のマーケットを見ると、1450万トン輸入されたLPGの平均価格は、トン当たり610ドル、100万BTU当たり13ドル。これは熱量ベースで、原油よりも8%高い水準。一方6600万トンのLNGが輸入され、その平均価格は100万BTU当たり8ドル、原油の70%弱。平均価格で見ると、LNGの競争力は依然として強いものがある。

○もう少し細かく見ると、昨年12月、日本の1社はインドネシアからのスポットLNGを1004ドルで輸入し、もう1社はマレーシアからのスポットに880ドルを支払っている。BTUに換算するとそれぞれ20ドル、17ドルに相当するレベル。このスポット価格は、2007年のLNGの平均輸入価格9ドルに比べ著しく割高であり、LPGと同等かそれをしのぐレベルになっている。これらのスポット価格は例外的であって、気にする必要はないではないかという議論もあるかもしれないが、一方では、この高価なスポット輸入は氷山の一角であり、LNG価格の上昇、LNGスポット市場拡大のシグナルであるとする見方もあ

る。われわれはLNGとLPGの価格差が次第に、しかし、着実に狭まっていくであろうと予測している。その結果、工業用燃料としてLPGの価値が貴重なサプリメントとして見直されていくのではないだろうか。これが、恐らくLPGの深刻な供給過剰はないであろうとわれわれが考えている一つの理由。

○LNG以外では、LPGとナフサの価格差が注目される。昨年日本が石油化学原料として輸入したナフサの価格は、トン当たり 670 ドル、100 万BTU当たり 15 ドルで。熱量ベースで、輸入LPGの 13 ドルに比べて 15%も高いレベルだった。世界的にナフサの需給は引き締まっているおり、石油化学原料としてのLPGへの潜在的かつ少なからぬ需要があるとわれわれは考えている。これが当面LPGの深刻な供給過剰はあるまいとわれわれが予測する二つ目の理由。

○CPは14歳になったが、昨年のCPパフォーマンスを簡単に振り返ってみたい。昨年のCPは平均でプロパン、ブタンそれぞれ 600 ドルと、617 ドルと、アラビアンライト原油の熱量対比では 110%、114%で、BTUベースでは、CPの13年間の平均値である 128%、127%に比べ、かなりの低レベルであった。CPのBTU、すなわち熱量換算のレベルは近年かなり低下の傾向を示している。



○また、C PはF O Bアラビア湾市場において、競争力を維持し、F O B・A Gのスポット市場価格に比べ、昨年のC Pはプロパン、ブタンそれぞれ2ドル80セントで、4ドル低めである。C PはF O Bアラビア湾の市況を反映し、同時にC Pでお買い上げいただいているターム契約の客先の利益にも寄与していると考えます。

○C Pは引き続き、客先のお声にも耳を傾けている。昨年のC Pは、われわれが毎月伺っているアジアの長期契約カスタマーのお声から3%以内に収まっている。買い手は安く買いたい、売り手は高く売りたいという中であって、3%の差は健全かつリーズナブルといえる。

○C Pの今後はどうなるのか。C Pはマーケットを反映し続けると申し上げたい。しかし、マーケットとは何なのか、これは長年にわたる課題であって、これこそが、L P Gビジネスの最も難しいところであり、このことは今も変わっていない。われわれはマーケットを把握する手段の一つとして、五つの業界紙によるC F Rジャパン・中国の値動きを毎日見しており、この5紙の発信地は、シンガポール、日本、中国である。

○一例として、2月18日、プロパンについて、シンガポールベースのB紙は、811ドル50と報じ、一方中国ベースのE紙は850ドルと見ており、その差は40ドル近くある。ブタンについても同様、ほぼ40ドルの差がある。ここで私たちが申し上げたいことは、メディア各社の懸命な努力にもかかわらず、L P Gマーケットを査定するということがますます難しくなっている、ますます感覚的、仮定的になっているということである。

○L P Gマーケットの透明性と独立性をいかに保ち、そしてサウジアラムコと、その客先との信頼できるビジネス関係を維持していくには、どうしたらいいのか。私どもの考えを申し上げたい。それは「サプライヤーとコンシューマーは一つのコインの両面である」ということである。コインの表を裏から切り離すことはできないのと同じように、プロデューサーとコンシューマーの関係は不可分であり、同じ例えが、L P Gビジネス、さらにはサウジアラムコの客先（カスタマー）との関係にも当てはまると思う。このような両者の相互の信頼関係を象徴しているのがC Pではないかとわれわれは考えている。

○日本の言葉で「以心伝心」。言葉を使わずに叡智や気持ちを心から心へと速やかに通じさせることである。私どもとアジアのLPGビジネスは、1961年ほぼ半世紀前に日本が最初のLPG輸入をラスタヌラから行ったことに始まり、この間、サウジアラムコはアジアの客先の皆さまと強いきずな、相互補完的なパートナーシップを作り上げてきた。コミュニケーションも深まってきた。私どもの関係は、そろそろ互いに心を読むことができる「以心伝心」の域に近づいているのではないだろうか。

質疑応答 10

(質問者A) 質問ではなくて、意見を言わせていただきたい。CPとアラビアンライトのカロリー比を出されていたのですけれども、過去10年くらい、アラビアンライト比は確か128%とか130%くらいというのが平均値であったと、去年2007年は、プロパンで110%、ブタンが114%で、かなり安くなっているというような主張をされたかと思うのですけれども、少なくとも私どもはそのようには見ていません。といいますのは、例えば10年くらい前のアラビアンレートは20ドルくらいだと思いますが、現在は100ドル近いアラビアンレートです。そうすると、1%の重みが全然違います。仮に100%に対して、10%高いということになりますと、10年前の10%、20ドルですと大体16、だから10%だと16ドルですね。LPGのトンに直して、16ドル高いというのが10年前の10%。ところが100ドルですと、80ドルになります。少し極端な例ですけれども、アラビアンレートで100ドル×8にしますと、LPGで800ドルです。そうしますと10%で、80ドルになります。だから16ドルと、80ドルでは全然違うというのが、私ども日本のLPGのインポーターが理解しているところです。

(アル・フヘイド氏) われわれがやっていることですが、ここ2年くらい、製品のすべてのスケールを全体で比較しています。そして随分と高騰があったのです。それで実際に分かったのが、LPガスは特にほかに比べると伸び率が低かったということで、2年前に確かそういった図を見せたと思うのです。ナフサの価格ですとか、ディスティレートだとか、クルードとか。LPガスの価格に関しては、一番伸びが小さかった製品だったということは、前も説明をさせていただきました。

(質問者B) 国内の消費量が伸びるという話をなさっていましたがけれども、特にその国内消費で大きい伸びが期待できるのは、何分野ですか。

(アル・フヘイド氏) これは全部石化プラント向けです。オンストリームになる運用開始が2009年以降になっているものです。

(アルバダイウイ氏) 一つ、コメントさせてください。国内需要の予測なのでですけども、これは年1回アップデートされています。今回も、今年が一番最新のものということで紹介しています。ですから、昨年の予測とは違っているかと思います。というのも、これから先、プロジェクトが立ち上がってくるということで、数字もそれをにらんだ形での更新がかけられます。

(質問者B) 輸出量1300万トンが、600万トンくらい下がる、これは国内の需要が伸びるからということだったのですが、この輸出のいろいろな施設があり、それらは輸出向けだったと思うのですがけれども、これは何かほかに振り向けるのか、それともアイドル状態で使われなくなるのか。要するに、輸出が減りますよね。でも輸出用の施設があると。本当だったら1300万トンくらいということで、この3～4年くらいの間でこういった形で、輸出の施設が使われなくなるのかということですが。

(アル・フヘイド氏) もともと輸出向けに900万あるいは800万まで戻るかどうかわかりませんが、こういった数字というのは毎年遅れが生じていて、ただ、今、貯蔵の容量が余分にあるということで、輸出余力は少し下がっているという、柔軟性が得られるということにもなります。要は、より自由に追加のものに対応ができるということです。柔軟性が高まります。それから、もう一つ言うと、輸出施設これはLPガスの輸出ですが、ターミナルとかバースのものでですけども、このバースはほかの製品とも共有で使っています。LPガスだけのものもありますし、共有でLPガス以外のものと一緒に使っている設備もバースの方にはあります。

(アルバダイウイ氏) もう一つ私の方からも、サウジアラムコでは、そのオペレーションの柔軟性をシステムに折り込んでいることを誇りにしています。例えば、スペアのキャパシティ、原油ですと150万バレルということです。これをアイドルと、遊ばせているとは言いません。LPガスに関してでは、いったん500万～600万まで下がってしまうと、

それもやはりアイドルと呼ぶのかなという気もいたします。多分呼ばないと思うのです。やはり毎年状況が変わってくるということですので、そうならないと分からないといえますか、それまではこの施設を維持します。

(アル・フヘイド氏) つまり、スポットで売らなくてもいいということです。長い、そういったストレージがあるということですから。

(質問者C) サウジアラムコさんの国内需要の予想と私どもの予想はかなり違って、今回だいぶ真ん中くらいになってきたということで、今おっしゃったように国内の需要の予測はどのようにされているか。私どもはいろいろなことを精査、いろいろな建設費の高騰による遅れなどは発表されているけれども、相当な遅れとか、高級技術者とか特殊技術者の不足による工事の停滞およびキャンセルを相当見込んで、需要予測をしているのですが、今回はどのように石化プロジェクトの予測をされたか。前回も同じような議論が相当あって、われわれの予測とアラムコさんの予測は極端に違っていたのですが、今回はどういふ予測をされたか教えてください。

(アル・フヘイド氏) こういったプロジェクトで私が触れたものは、国内の石化プラントも含めて、アラムコから独立したものですが、われわれの役割としては、あくまでも原料供給の部分だけなのです。この数字として私たちが受けたのは、いろいろな組織からいただいています。政府から来るものもあるし、特定のアラムコの中の組織もあって、そういったプラントと関係があるところもあります。ですから、いつ運用開始なのかということ、定期的にそういった会社とミーティングを持って聞き出します。それを教えてもらって、最終的に私たちのところに来るので、それこそ最後の段階で私たちは受け取るというような立場にあります。それをベースにしています。われわれの前にたくさんの人がかかわっていて、建設について議論をしています。当事者といろいろ話をした結果の数字をもらった上でまとめています。

(アル・ドサリー氏) もう一つ、今回の大きな違いとして、数年前と比べて何が違うかということ、キャッシュフローがかなりサウジアラビア国内にあるということです。そのようにお金がたくさんあって、今のマーケットを見ると、石化の部分にかなりアグレッシブに返ってきているということで、12プラントはもう固まっています、そして建設も始まっている。ですからきちんと追加のお金、余剰なお金の投資先が決まっています。そしてもう

12 プラントの建設が始まっています。

(アル・マスウド氏) 私たちは、国内需要に 100%コミットしていますので、大変抑えめの予測を立てています。これらのプラントがきちんと生産を予定どおりにするということを、かなり手堅く見て、その上で見積もっています。

(質問者D) こうしたらいいのではないかというようなことも含めての意見ですが、C Pは、何となく月末の価格が翌月のものになるというような傾向があるかと思うのです。先ほどアーメッドさんがご説明されましたように、非常にマーケットのシステムは難しく、原油が1カ月に10~15ドル動くという中で、非常に値段合わせをするのは難しく、しかもC Pというのはマンスリープライスですから1カ月に1回しか出ません。このあたり、例えば原油などですと1カ月の平均の値段を使って、次の月の値段が決まるというようなことがあるのですが、L P Gで、もうちょっと平均の値段で、マンスリープライスを付けるとか、そのような努力をされた方がいいと思うのです。そのあたりについてのご意見をお伺いしたいのですが。

(アル・フヘイド氏) 先ほども言いましたが、C Pの決定ですけれどもいろいろな要素を検討します。原油価格は大変重要な役割を、C P決定には果たしています。もう既に、ですから織り込み済みです。

(質問者D) 織り込み済みだということですが、最後のスポットで値段が決まるという傾向があるので、ぜひそのあたりをよく考えて、もう一度もっと織り込んでいただけるようにしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(アル・フヘイド氏) 今のコメントについてですが、実は先月末のものは、C Pよりも随分高かったのです。それでラストヌラからカーゴが出ていたら、スポットは830を超えていたと思うのです。例えば、先月カーゴを売っていたとしても、C Pにはそんなに影響しません。ですから、やはり状況によるのです。貨物も見ると、背景の要因も見なければいけない。なぜこれだけの価格をスポットで払ったのかとか、そういったことを考えて、スポットについては、これは無視しようというふうにも考えています。